

短期間での進行を認めた異所性肺石灰化症の1例

鳥越千尋^{1)†} 田中 愛¹⁾ 西尾末広¹⁾²⁾ 上野拓也¹⁾

IRYO Vol. 78 No. 1 (60-64) 2024

要旨

症例は72歳男性。食欲不振や全身倦怠感の症状に加え著明な高カルシウム血症および高リン血症を認め、精査加療目的に国立病院機構別府医療センター（当院）に入院となった。高カルシウム血症に関しては副甲状腺腺腫が原因と判明したが、発熱や炎症反応上昇がみられ、胸部CTでびまん性のすりガラス影を認めた。抗菌薬投与を行ったが、陰影は増悪し浸潤影へ進展した後、石灰化病変の出現を認めた。気管支鏡検査を行い、病理検査で異所性肺石灰化症と診断した。異所性肺石灰化症の発症初期から陰影完成までをCT画像で追えた症例の報告はまれである。著明な高カルシウム血症および高リン血症をとめない、肺炎像を呈するも、感染症による肺炎とは異なる臨床像や治療経過をたどる症例においては、異所性肺石灰化症も鑑別診断に挙げる必要があると思われる。

キーワード 異所性肺石灰化症, 高カルシウム血症, 高リン血症

はじめに

異所性肺石灰化症は、さまざまな原因による持続性的高カルシウム血症が、肺胞壁や間質、血管壁などへのリン酸カルシウムの沈着を引き起こすことで生じる。胸部CTで肺炎像を疑う陰影を呈するが、無症候性であることが多く、診断治療に難渋する場合もある。今回われわれは、胸部CTで異所性肺石灰化症発症からの進行性の経過を追えた稀有な症例を経験したので、報告する。

症 例

72歳、男性。高血圧症の既往歴あり。52年間×15本/日の喫煙歴あり。粉塵暴露歴・加湿器使用なし。4年前に近医で高血圧症とCr 2.0 mg/dlの腎機能低下を指摘され、降圧剤などで加療を受けていた。1カ月前から食思不振と倦怠感が出現したため、近医を受診したところ、Cr 5.13 mg/dl、BUN 82.1 mg/dl、Ca 20 mg/dlと腎機能悪化および著明な高カルシウム血症を認めたため、精査加療目的で国立病院機構別府医療センター（当院）へ紹介入院となった。

国立病院機構別府医療センター 1) 呼吸器内科 2) にしお呼吸器内科アレルギークリニック †医師

著者連絡先：鳥越千尋 国立病院機構別府医療センター 呼吸器内科

〒874-0011 大分県別府市大字内竈1473番地

e-mail : chihiro-e@oita-u.ac.jp

(2023年2月28日受付 2023年10月13日受理)

Rapidly Progressive Ectopic Pulmonary Calcification : A Case Report

Chihiro Torigoe, Ai Tanaka, Suehiro Nishio and Takuya Ueno

1) NHO Beppu Medical Center 2) Nishio Clinic Respiratory and Allergy Medicine

(Received Feb. 28, 2023, Accepted Oct. 13, 2023)

Key Words : ectopic pulmonary calcification, hypercalcemia, hyperphosphatemia